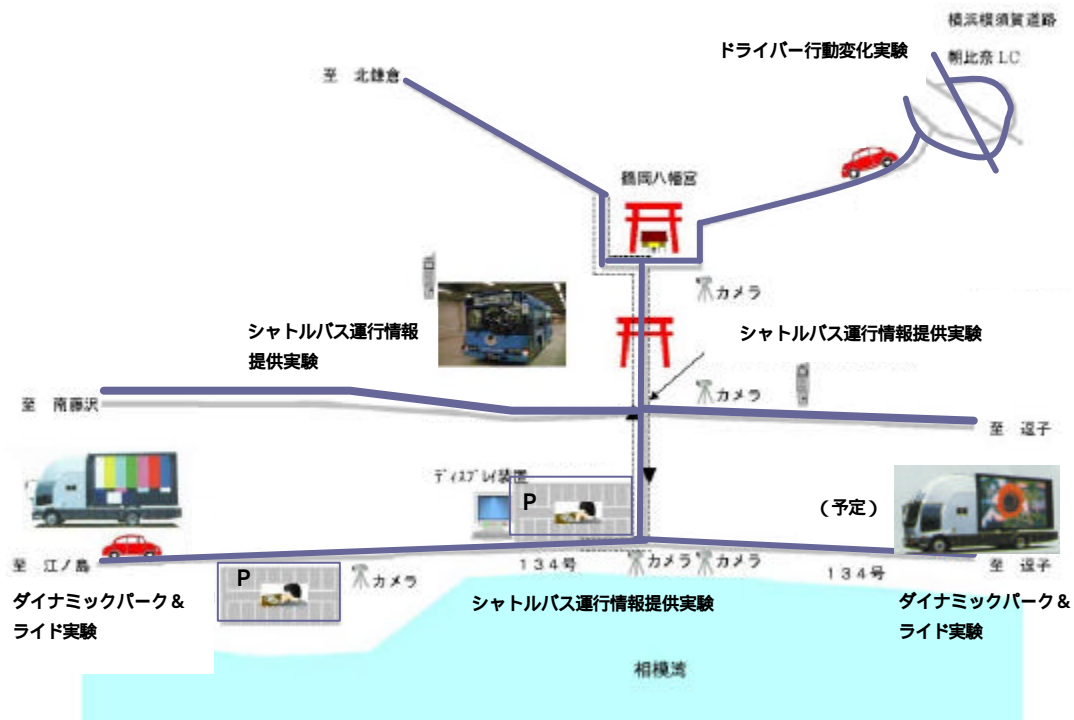




研究会ニュース

総合的な情報提供による鎌倉地域交通円滑化実験 (実験イメージ図)



平成 15 年度社会実験に関する委員の主な意見

- 北鎌倉の鎌倉横浜線も車が多いので、何らかの対策が必要ではないかな。
- 社会実験には多くのエネルギーが必要だと思うが、歩行環境の向上も並行して進めて欲しいな。
- 鎌倉市は平成 11 年度に一度国の支援を受けているが、二度目の支援も受けられるのかしら。
- プロモーションを社会実験の項目の一つに入れているのは、おもしろいな。これにより、一般の市民の意見をもっと取り込めるんじゃないかな。

研究会での主な発言を親しみやすく会話風に編集しました。発言者と人物イラストは直接関係ありません。

研究会に関するご意見・お問い合わせは **鎌倉市交通政策研究会事務局**へ

鎌倉市 都市整備部 交通政策課
〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号

問い合わせ: TEL. 0467(23)3000(内線2511)
FAX. 0467(23)8700
E-mail koutsu@city.kamakura.kanagawa.jp

第 3 回 鎌倉市交通政策研究会が開催されました。

平成 15 年 3 月 27 日、JR 大船駅ルミネウイング 6 階ルミネウイングサロンにて第 3 回研究会が開催されました。第 3 回研究会では、第 2 回研究会(平成 15 年 1 月 31 日開催)での議論をもとに、その後開催した第 2～4 回運営委員会での討議結果を踏まえ、今後の研究会の進め方や鎌倉地域交通円滑化実験などについて、下記の話合いが行われました。

運営委員会...研究会の効率的かつ円滑な運営について必要な協議及び調整を行うため、研究会に運営委員会を置くこととします。なお、運営委員会の委員は、研究会の委員のうちから会長が指名します。

第 2～4 回運営委員会での討議結果

交通政策に関わる諸計画の理念、目的等を整理するとともに、歩行者系道路の扱いは他の部署で扱う「鎌倉市交通安全計画」や「安心歩行エリア」などの計画・制度において推進し、連携していくことが確認された。

今後の研究会の方向性としては、平成 8 年及び平成 13 年の提言の基本的な考え方を概ね継承しつつ、新しい考え方も取り入れていくことで合意した。

平成 15 年度に実施予定の「総合的な情報提供」と「プロモーション」に関する社会実験案については、運営委員会としてのアイデアを出し、現時点における最終実施案としてまとめた。

第 3 回研究会での討議内容

- 交通政策に関する既定計画等の整理**
本市の交通政策を検討する上での理念や目的を明確にするため、上位計画、鎌倉地域の既定交通計画、歩行環境の向上策への取組みを確認しました。
- 本研究会の今後の進め方**
での検討を踏まえ、今後の進め方について討議しました。
- 鎌倉地域交通円滑化実験について**
平成 15 年度に予定している社会実験(案)について討議しました。(実験内容は中面を参照)



第 3 回研究会 (於 JR 大船駅ルミネウイング 6 階)

交通政策に関する既定計画等の整理

関連上位計画から、市民生活、地域特性、地球環境、まちづくり等に関する考え方を整理し、ここから導き出される「都市づくり」の理念を踏まえ、交通政策に関する3つの計画を検討・推進します。

関連上位計画	都市づくりの理念	交通政策に関する計画	施策の組み立て・考え方
第3次 鎌倉市総合計画 (平成8年3月)	安全・快適・防災・ 緊急性への対応・ 歴史・観光・活力・ 環境保全・資源等 の有効活用・自動 車交通抑制・公共 交通利用促進・パ リアフリー・ユニ バーサルデザイン ・市民参画・協 働等	交通マスター プラン	・将来の活力を想像する交通環境整備 ・古都鎌倉での交通需要管理施策推進 ・幹線道路網強化による居住環境保全 ・誰もが利用しやすい交通施策の整備
鎌倉市 都市マスタープラン (平成10年3月)		鎌倉地域 地区交通計画	・自動車利用の抑制と公共交通の活用 による安全で快適な地域づくり ・市民生活と観光が共生できるまち ・歩いて楽しい観光地づくり
鎌倉市 環境基本計画 (平成8年2月)		オムニバスタウン 計画	・バス路線の整備 ・交通結節点での施設整備等 ・バスレーンなどの施設整備 ・バス車両の改善・啓発活動

また、上記の「交通政策に関する計画」とは別に、鎌倉市交通安全計画 鎌倉市移動円滑化基本構想・安心歩行エリアなど“道路(ハード)整備を中心とした計画”も、関連各課で検討しています。

研究会の今後の進め方

今後の進め方については下記に示す(案)について討議し、一部修正が加われました。

【第1回研究会での主な意見】

【今後の基本的な進め方】
・鎌倉地域でTDM施策を推進
・ハード整備も必要
【まちづくりの目標】
・“歩く観光”と整合した“鎌倉らしいまちづくり”
・“徒歩と公共交通を優先したまちづくり”(自動車と人が共存できるまちづくり)
【計画対象とする時期】
・日曜・休日(土曜日を含む)
【主な取り組み内容】
・『歩行環境の向上』、『安心して歩けるまちづくり』
【施策の実現に向けて】
・TDM施策の実現に向けた課題の理解と合意形成
・実施可能な施策より実施する

【基本的な考え方】

TDM施策
旧研究会(鎌倉地域交通計画研究会)から出された提言¹⁾、提言その2²⁾の基本的な考え方を継承しつつ、新しい考え方も取り入れていきます。
TDM施策を実現していく上で有効、かつ実現可能なハード整備も検討します。

【今後の進め方(案)】

地区交通計画では『歩行環境の向上』を最も重要な目標としていますが、効果を十分上げるためには、鎌倉地域内の交通量を減少させる必要があります。
鎌倉地域内への自動車交通を抑制及び公共交通に転換する方策として期待されているのが『総合的な情報提供』と『プロモーション』です。
提言・その2では、2つの施策を今後積極的に進める施策として位置づけています。
このため、本研究会では、先ず2つの施策に取り組み、施策の効果と問題点を検証していくことを提案します。
『歩行環境の向上策』については、安心歩行エリアなどの施策を適用しながら進めていき、実験などが必要な場合には、研究会としても取り組んでいきます。

1・・・『鎌倉地域の地区交通計画に関する提言』をいう。平成8年5月、鎌倉地域の地区交通計画(案)を含む基本的な整備方針を旧研究会が市へ提言。
2・・・『鎌倉地域の地区交通計画に関する提言その2』をいう。平成13年9月、先の提言後の経過を鑑み、今後の方向性について、旧研究会が市へ提言。

「都市づくりの理念」と「研究会の進め方」に関する委員の主な意見

交通量の減少の見通しが立たないと、歩行環境を向上させる施策が行えないということは疑問！言葉を修正したほうがいい。

交通量を減少させることと、歩行環境の向上を同時に進められないがしら。

生活道路では車線を一車線減らして一方通行にしたり、あるいは車線幅を縮小して、これによって生じた余裕を歩行環境の向上にあてれば、強制的に交通量を削減させると共に歩行環境の向上を図ることができるのでは。

研究会での主な発言を親しみやすく会話風に編集しました。発言者と人物イラストは直接関係ありません。

平成15年度鎌倉地域交通円滑化実験について

社会実験って何？

- ・社会実験とは、大きな影響を与える可能性が高い新しい施策の導入に先立ち、現実の社会において場所と期間を限定して施策を試行(実験)するとともに、試行結果の評価を行い、施策を本格的に導入するか否かの判断材料を得ることです。
- ・国土交通省道路局では、平成11年度より、渋滞対策や地球温暖化対策などのために、公共交通利用の促進、相乗りといった交通需要マネジメント(TDM)など、新しい道路施策についての社会実験を支援する制度を創設しています。
- ・鎌倉市では平成11年度にこの制度による支援を受けて、鎌倉地域の交通円滑化総合実験を実施し、その効果と課題を把握したうえで、現実的な施策内容を検討しながら、現在5つの施策を実施しています。平成15年度は、「総合的な情報提供」、「プロモーション」についての実験・検証を実施したいと考えています。

平成15年度鎌倉地域交通円滑化実験について(国土交通省への申請概要)

1. 総合的な情報提供実験の目的

- ・本実験は、最先端の移動式映像器等を活用した情報を提供することで、ドライバーの行動変化や情報のニーズを把握し、今後の総合的な情報提供のあり方を検証することとします。

2. 実験概要

- (1) 実験実施地域：鎌倉地域及びその周辺の一部地域
- (2) 実験開始予定時期：15年11月頃
- (3) 実験期間：土、日、休日10日間(全体 約1ヶ月)
- (4) 実験の内容

実験項目：ダイナミックパーク&ライド実験

- ・最新の大型ディスプレイ搭載車を利用して、鎌倉地域内の総合的な情報やパーク&ライド駐車場に関する詳細な情報を提供し、適切な案内を行う。なお、国道134号の西方から鎌倉地域へ向う車に対しては、七里ガ浜パーク&レールライドの利用促進と、国道134号の東方から鎌倉地域へ向う車に対しては、由比ガ浜パーク&ライドの利用促進を図る。

実験項目：シャトルバス運行情報提供実験

- ・現在実施している「由比ガ浜パーク&ライド」に合わせ、パーク&ライド駐車場でシャトルバスのリアルタイム運行状況をビジュアル的に情報提供するとともに、シャトルバス内では駐車場までの到着予測時間等の情報を、シャトルバスを降りた後の観光時には、携帯電話からアクセス可能な運行状況を、それぞれ提供する実験を行う。

実験項目：ドライバー行動変化実験

- ・鎌倉地域への東の玄関口でもある横浜横須賀道路朝比奈ICより手前の本線上で、既存の交通情報板を活用し鎌倉地域内の交通(混雑)情報の提供を行い、パーク&ライドシステムの利用を促す。また、朝比奈IC以南のIC各出口で、ドライバーにアンケート調査票を配布し、交通情報板を見たことによる行動変化を記載、返送してもらう。

実験項目：プロモーション

- ・プロモーションを情報提供の一貫と捉え、今回の社会実験の主旨、交通政策に関する鎌倉市の取組み等を広範囲にPRし、交通政策の必要性を全市的に啓発するとともに、本市の取り組みに対する様々な意見を得るため、IT技術を活用した総合的な情報提供やシンポジウムまたはミニコンサートなどを行う。

社会実験の概要図は最終面をご覧ください。